

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>

全国病児保育
協議会
広報委員会

病児保育協議会ニュース



- ＝今号の目次＝
- 1頁 協議会メール
手をつなごう、三重に行って！
 - 2頁 加盟施設紹介
橘高クリニック病児保育室「キッズルームコアラ」
医療法人杉村会杉村病院附属キナーハウス
病児保育室ほしのこ
さくら保育園 病後児保育室
 - 3頁 支部便り 愛媛県支部から
支部便り 三重県支部から
 - 4頁 支部便り 北東北ブロックから
 - 4頁 支部便り 大阪支部から
 - 5頁 支部便り 近畿ブロックから
 - 6頁 協議会メール
厚生労働省訪問報告
TOPICS
 - 7頁 平成20年度からの病児・病後児保育再編のポイント
新年度に向け施設紹介ポスターの活用を！
 - 8頁 病児保育協議会発行の書籍紹介
会員専用掲示板の利用について
全国病児保育協議会新規加入の施設

協議会メール

手をつなごう、三重に行って！

第18回全国病児保育研究大会 in 三重大会 プログラム委員長 羽根 靖之

全国の病児保育関係者の皆様、こんにちは。今年の7月20日、21日に三重県四日市市で全国病児保育協議会研究大会を開催します。テーマは、「手をつなごう、病児保育と共に」サブテーマが「究極の子育て支援を目指して」です。

病児保育施設は全国でも増えつつありますが、まだまだ地域差などもありますし、一般市民への認知度も様々です。今回は市民団体やNPO団体の方たちのご協力も頂き、我が国の少子化社会で病児保育がどのような役割を担っているか、また、これからの病児保育活動を子育て支援の視点の中で見直してみようというのが、我々大会実行委員会の考えです。ぜひ、全国から三重に集まって頂き、おおいに意見交換や勉強をしましょう。



伊勢神宮

さて、三重には勉強の後の楽しみもご紹介します。御紹介をしたいと思います。まずは、あまり知られてませんが、大会開催地である四日市市は日本茶の発祥地とされています。以前は公害のマイナスイメージでしたが、現在はクリーンな地域に生まれ変わっております。

そして、少し足を延ばすと、湯ノ山温泉があり、秋には紅葉もきれいで、鹿が息しています。また、南には、F1で有名な鈴鹿サーキットがあります。さらに南下しますと「枕草子」に三名泉と記載のある榊原温泉、日本神話の信仰の源である伊勢神宮、鳥羽水族館や真珠王御木本幸吉ゆかりのミキモト真珠島など全国有数の観光地である伊勢志摩があります。更に、世界遺産となった熊野古道、また、西方、奈良県との境には伊賀忍者で有名な伊賀市などがあります。

何よりも三重は日本で最初に「美味し国」を掲げた地域で、食材の宝庫とされる地域でもあります。名前にもなっている伊勢海老はもちろんです、伊勢湾には江戸前に勝るほどの寿司ネタの魚介が豊富です。

有名ブランドになった安乗（あ のり）フグや、的矢湾では無菌牡蠣が養殖されています。松阪牛は言うまでもなく、松阪豚、エスカルゴの養殖、モロヘイヤ、桑名の蛤もあります。その他にも、南のサンマ寿司、めはり寿司、てこね寿司などの郷土料理やみかん、梨、メロン、柿などの果物もおいしいですよ。

また、赤福餅も皆様が来られる頃には、三重でしか手に入らない土産品として復活していることでしょう。

今回は、医学会などで企画されるランチョンセミナーを2日間開きます。無料で昼食を召し上がりながら著名な講師のお話で勉強もできます。

さあ、三重で手をつなぎ、頭もお腹も満腹になられますよう、実行委員会が一丸となってお待ちしております。全国の皆様、三重においしい。

現在下記のホームページで大会演題を募集しています。多数の方の応募をお待ちしています。

大会ホームページ
<http://jecs.org/byoujihoiku/byoujihoiku18.html>

★ ★ 加 盟 施 設 紹 介 ★ ★

橋高クリニック

病児保育室「キッズルームコアラ」

病児保育室「キッズルームコアラ」は、平成16年10月に、福山市の委託により開設しました。橋高クリニックの医療機関併設型施設で定員4名、対象年齢は生後6ヶ月～小学3年生までのお子さんをお預かりしています。

保護者から、「子どもが自分から行きたがるんです」とか「利用した翌日は保育所へ行きたがらないのは、コアラが楽しかったのでしょうかね」等と聞かされると、苦笑いをしながらも嬉しい気持ちになります。別れ際に「またね!(遊ぼうね)」と手を振る子ども達の笑顔に1日の疲れを忘れ、

病児保育の喜びを感じます。

当施設は定員4名の少人数なので、家庭にいるような暖かい雰囲気作りを心がけ、子どもの個性を尊重し、病状に合わせた保育看護ができるよう、スタッフ一同努めています。

看護師 小泉 悦子
所在地：729-0113
広島県福山市宮前町2-4-25
TEL：084-934-0722



医療法人杉村会

杉村病院附属キンダーハウス

平成18年4月より杉村病院附属病後児保育室キンダーハウスを開始いたしました。「キンダーハウス」とは、ドイツ語で「子どもの家」という意味です。

2部屋を病後児保育室として確保しており感染症に対応可能で、隔離の必要な症状の子どもさんや同じ症状の子どもさんなど、そのときの子供の症状により各部屋でのケアを行っています。

病後児保育室の担当は二人の専従看護師と非常勤の保育士を配属しており、病院に併設しているため、子どもさんをお預かりしている間に病状が急変した場合など素早く

小児科の医師に見てもらえ、適切な処置をしてもらうことが可能です。

地域に密着した様々な年代の子どもさんに対し、適切な保育看護が提供出来るように、私たち職員も頑張っています。

看護師 小仲
所在地：860-0811
熊本県熊本市本荘3丁目7-18
TEL：096-372-3322
<http://sugimurakai.jp/>



病後児保育室ほしのこ

ほしのこは、2006年4月に開所し、2007年4月から北斗市から委託を受けた病後児保育室です。定員は4名(隔離室1名)、保育士2名、看護師1名で毎日奮闘しています。年間190名を超えるご利用をいただいております。

日々の保育では、体調管理を一番に考え、病状に合わせた保育を心掛けています。市販の玩具もありますが、手作りの玩具や昔懐かしい遊び等工夫を凝らし、一日楽しく過ごせるように設定しています。テレビがないので、「ここ静かだね。」と言うお子さんも多いですが、その分一人一人かか

わって保育しているので、いろいろな発見もあります。

また、保護者の方とは、手作りのアンパンマンキャラクターノートで、一日の内容をお知らせして喜ばれております。利用者が安心して通える保育室作りを目指して、今後とも努力したいと思います。

保育士 山口 美津子
所在地：049-0162
北海道北斗市中央2丁目4番10号
TEL：0952-26-7628



さくら保育園 病後児保育室

当施設は、栃木市の委託事業として、平成13年5月より保育園併設型病後児保育室を開設し、今年で7年目を迎えました。定員は4名で、生後3ヶ月から就学前までのお子様をお預かりし、看護師1名、保育士1名で保育しております。

一般保育室の他に、伝染病のお子様をお預かりする隔離保育室も備えています。お部屋では、ブロックやパズル、絵本の読み聞かせ、ぬり絵やシール貼り等、病状に合わせた遊びを行っています。熱が無く、活気がある時は、園庭まで散歩に出かけ、草花を眺めて

きます。

食事の面では、症状、年齢、アレルギーの有無に配慮し、子ども達が食べやすい献立を提供する様、心掛けています。

今後も、働くお母様方のサポーターとして、尚且安心してお子様を預けて頂ける様、スタッフ一同頑張っていきたいと考えております。

看護師 石井 幸子
所在地：328-0062
栃木市泉川町651-1
TEL：0282-24-3900



東 西 南 北 支 部 便 り

愛媛県支部から
第6回愛媛県支部総会・研修会の報告
 むかいだ小児科キッズハウス 向田 隆通

平成19年6月24日に、愛媛県四国中央市、保健センターにて、第6回愛媛県支部・総会・研修会が開催されました。

今回は、医師、看護師、保育士のメンバーに加え、保健師をはじめ、医療事務、栄養士、理学療法士など、様々な専門分野からの参加がありました。

午前中は、「乳児期のかかわりかた～運動発達を通して～」と題を称し、乳児の運動発達における研修と理学療法士による実技が行



われました。実技では、乳児の人形を用いて、首すわり～歩行までの運動発達の支援の仕方を学び、実際に私達自身も体を動かし、乳児の動作を体験しました。実際に動いてみると大人との動きとは違うことや、バランスの大切さを知ることができました。参加者からも「乳児の支援方法を学び、よい勉強になった」等の感想を頂きました。乳児の発達を知ることは、一人、一人の発達にあったかかわりができ、また、その事が子どもにとって安心感をあたえることにつながるのだという事を感じました。

そして、午後からのグループ討議では、「病児の過ごし方」、「地域との連携の仕方」をテーマに上げ、各施設での取り組みや課題等が話し合われました。そして、「(保育室における)病児の過ごし方



では子ども達とどのように接しているか(身体面において)という事が主に話し合われ、「地域との連携の仕方」では、広報活動(内容)について話し合われました。討議をすることによって日頃の疑問点や問題点の解決につながり、また、今の保育看護等を見直すことができました。皆さんから頂いたご意見は今後の病児保育を行っていく上で大変参考になりました。

様々な視点から病(後)児保育を考え、子ども達にとって安心できる心地よい保育室であるよう、そして、地域の方に親しんでもらえるような施設を目指していきたいという意見が寄せられ、実りのある会となりました。

三重県支部から
第5回三重県支部病児保育学習交流会報告
 白子クリニック鈴鹿市病児保育室ハピールーム 大井 園子

平成19年10月21日(日)に、三重県鈴鹿市の(医)白子クリニックにて第5回三重ブロック病児保育学習交流会を開催しました。

全体会では、鈴鹿市病児保育室ハピールームの施設長であり、白子クリニック産婦人科院長二井栄氏の挨拶で始まりました。

行政からは、鈴鹿市子育て支援課課長 服部 正氏より「鈴鹿市の病児保育の現状と今後について」お話をいただきました。

そして、「全国病児保育研究大会 in 三重」の今までの経緯を四日市市病児保育室カンガルームの山下純生氏より報告いただきました。嬉しいニュースとして三

重県では、松阪市の2施設(医療併設型・保育所併設型)が仲間入りしました。

分科会では、行政の担当の方を含む24名が参加し、病児保育に携わって日の浅いや、学習交流会初参加の方たちと事前にとったアンケート(保護者との付き合い方・食事について・なんでも相談等)集計を基に話し合い、これからシーズンを迎えるインフルエンザについても、各施設の対応について意見交換しました。

また、「全国病児保育研究大会 in 三重」の実行委員会も同時に開かれました。(参加者12名)地方都市ならではの特色を出せる



よう、新しい試みもとり混ぜながらの話し合いになりました。三重大会のホームページも立ち上がりましたので、一度開いてみてください。

三重県での全国大会開催も10ヶ月をきりました。ますます慌しくなりますが、皆さんと一緒に悩み、喜びを分かち合い、初心忘れることなく少しでも心のよりどころになれるように努力を重ねていきたいと思っております。そして一緒に盛り上げていきましょう。

東 西 南 北 支 部 便 り

北東北ブロックから

第5回北東北病児保育室交流会の報告

明星保育園病後児保育室プーさんルーム 澤口 由加里

北東北はまさに紅葉シーズンの平成19年10月28日(日)、八戸市総合福祉会館で第5回北東北病児保育室交流会が開催されました。青森、秋田、岩手の三県の他、宮城からの参加もあり、28施設、医師5名、施設長6名、看護師18名、保育士28名、その他4名、合わせて61名の参加で行われました。前日には、20名ほどでの懇親会も行いました。

午前は、『エンゼル多摩の取り組みと病児保育のこれからについて』と題して、全国病児保育協議会副会長であり『エンゼル多摩』施設長の池田奈緒子先生による講演が行われました。エンゼル多摩の取り組みについては、川崎市医師会主導により設立した経緯、完全隔離対応の施設の概要、長年積み重ねた看護・保育の細かな工夫や配慮等詳しく話して下さいました。

病児保育のこれからについては、病児保育に関する国の動向や制度、各施設の型と実施内容、管轄行政機関等についてわかりやすく説明をして下さいました。

保育と看護、事業への取り組みのたゆまぬ努力と真摯な姿勢を強く感じる講演でありました。これらは、行政・医療両面から整えられているバックアップ体制だけではなく、創立者の理念が、関係者・職員にしっかりと理解され、根付

いてきた結果のたまものであると強く感じました。

続いて、昨年からの事業が開始された八戸市のファミリーサポートセンターの活動内容の報告がありました。事業の概要や実績件数、病児時の利用状況と受け入れ体制、実際の活動記録を基にした事例の報告、病児時サポートの課題等についての報告がなされました。

午後は、①リスクマネジメントについて②感染症対策と与薬(火)医師・運営管理③年齢の異なる子どもの遊び方・関わり方の4つの分科会に別れ、1時間30分各テーマごとに研修や討議・情報交換を行いました。その後全体で集まり、分科会の報告、総会をして終了となりました。

1年に1度の集まりですが、新しいお仲間の方との顔合わせ、顔馴染みの方々との再会、限られた時間内での懇談ではありましたが、充実したひとときを過ごし、又明日からの病児保育に取り組む活力を生み出す1日となりました。

いずれも分かりやすくご説明いただくことができ、全国病児保育協議会と大阪支部会の位置づけ、今後の支部の方向性が示され、今後の大阪支部総会の一致団結した活動の第一歩として、参加者一同、意気高揚を図ることができたように感じられました。



大阪支部から

第1回大阪支部総会の印象記

病児保育室リトルベアー 佐久章

平成19年10月27日に大阪府中央区にある大阪市立中央青年センターを会場に大阪支部総会が行われました。平成18年11月に全国病児保育協議会大阪支部が発足後、初めての大阪支部総会となりました。当日は29施設63名の方々にご参加をいただくことができました。その内訳は協議会加盟施設が19施設、受託施設が23施設でした。

14:00に総会が始まり、清水麻利子先生(病児保育室こひつじ)が司会進行を務められ、まず初めに開会の挨拶として浜本芳彦先生(浜本小児科)より「大阪支部の現状と事業計画」についてお話し

ただけました。さらには木野稔先生(中野こども病院/全国病児保育協議会会長)より「全国病児保育協議会の現状と支部発足の経緯」についてご説明いただくことができました。続いて浜本芳彦先生より「会則説明と承認の件」「顧問の推薦と承認に関する件」につきまして説明がなされ、善く全会一致で承認いただくことができました。そして「病(後)児保育制度についてのアンケート結果」について大阪府下の全国病児保育協議会加盟施設(30施設)を対象として行われたアンケートの集計結果について解説していただくことができました。

総会の最後には堀田和子先生(枚方病児保育室)より閉会のお言葉をいただき、清水麻利子先生によって会場の参加者の方々の自己紹介の時間が設けられ、和やかな暖かい雰囲気の中で第一回の大阪支部総会を盛大に終えることができました。



東 西 南 北 支 部 便 り

近畿ブロックから
第1回近畿支部合同研修会の印象記
病児保育室リトルベアー 佐久章

合同研修会南

1984年に枚方病児保育室(香里)・寝屋川病児あけつくし保育所(現:病児保育室つくし)の先生方が中心になって近畿ブロック学習交流会が初めて行われました。それ以降は、2001年の第16回の学習交流会を契機に、近畿ブロック北と近畿ブロック南に分かれ、学習交流会を行ってきました。

そしてこの度の都道府県支部発足に伴い、北と南の近畿ブロックの活動は一旦終了し、今回の近畿支部合同研修会へと発展解消することとなったのです。第一回の近畿支部合同研修会ということで、手探り状態とはいえ、近畿ブロックからの転換という重責を感じながら、当日を迎えました。開催日が12月ということ、また研修会案内の発送が遅くなったこともあり、参加人数は伸び悩みましたが、

最終的には34名の方々に参加いただくことができました。

午前は10:15～11:45の日程で茂原直子先生(社団法人大阪府作業療法士会 副会長)に「障がいをもつ子ども達への理解 みんな一緒に保育にむけて」をテーマに講演していただきました。非常に分かりやすく、障がいの考え方・障がいを取り巻く環境などについてお話しして下さり、さらには各々の障がいに対する基礎的なことについて教えていただくことができました。さらには子ども達への支援の在り方についても学ぶことができました。この講演を通じて、「ありのままを受け止めていくこと」や日常の保育を丁寧に行い、再度見直すことが必要なのではないかと感じさせられました。

昼食・休憩の時間には各施設紹介(模造紙1枚程度で各施設の持ち寄り)の掲示物を熱心に見られる先生方、馴染みの顔と久々の再

会で話之花が咲く方々など見受けられ、窓から注ぎ込まれるポカポカとした日差しも手伝い、とても穏やかな雰囲気の際は漂う会場内でした。

午後は13:30～15:15の予定で4グループに分かれ、交流会を行いました。当日は午前の参加だけで帰られる方が続出し、当初1グループ7名程度で予定していたものが1グループ5名となってしまったものの、結果的には少人数でより具体的により活発な話し合いを行なうことができました。その中から様々な施設の方と話し合う事で問題の打開策が見えてきたり、今後の方向性が見えてきたりと大変有意義な時間を持つことができました。そして明日からの保育看護に向かう活力を得ることができたように感じることができました。最後には自己紹介を兼ね、参加者の方々から一言ずつコメントをいただきましたが、その表情がとても華やかに見え、笑顔が輝いているようで、いい交流ができたのかなと感じさせられました。このような会を続けていくことで、病児保育の質の向上と連携の強化につながればと考えさせられました。

合同研修会北

近畿ブロックの学習交流会から近畿支部合同研修会へと移行する中で、今回は近畿支部を「北」と「南」にわけ研修会を持つこととなり、平成19年12月に行われた「南」の近畿支部合同研修会に続き、今回は「北」での開催となりました。当日は厳しい寒さではありましたが、約25施設から60余名の参加者が集まり、参加者の方々の病(後)児保育にかかる意気込みが寒さを吹き飛ばし、活気溢れる会となりました。

当日は先に行われた「南」の講演会と同様の内容で、「病児保育の中で、障がいを持つ子ども達が安全に、安心して過ごせるように」のテーマで、作業療法士 井上美代子先生(あそび場 たっち)に講演をしていただくことができまし

た。実際の子どもの様子を含め、非常にわかりやすく熱心にお話しをして頂く事ができ、作業療法の概念や個別の障がいについて、さらには個別の援助方法などまで詳しくご講演頂きました。そして先生の熱心はお話しに呼応するかのよう、質疑応答の時間帯には多くの方々から意欲的に質問がなされ、1つ1つの質問に丁寧に答え下さいました。

昼食後には、参加者が4グループに分かれ、1グループ13名程度のメンバーで話し合いが行われました。当日はテーマを定めず、個々の施設の状況報告、抱えている疑問・問題点など多岐に渡って自由な討議が進められ、私が参加させて頂いたグループでは、「勤務交代に伴う子どもへの負担」について個々の施設の勤務形態から配慮している事柄についてまで意

見交換が行われました。この他にも様々な内容で議論がなされる中で、自園式病児保育についての各地域の状況報告などもあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

また当日は昼食の時間を利用し、近畿支部の支部長会議が行われました。参加いただいた支部は、大阪・京都・兵庫の3府県で、これまでの近畿ブロック学習交流会の経緯の確認と今後の近畿支部合同研修会の進め方を初め、今後の近畿各支部の方針についても話し合いが行われました。近畿支部合同研修会については、今後は6月の第一日曜日の定例とし、実行委員会は近畿各支部の持ち回りとする事で決定し、方向性を確認しあうことができました。

協議会メール

厚生労働省訪問報告

—平成20年度からの病児・病後児保育について—

全国病児保育協議会 副会長 池田 奈緒子

2008年2月7日午後、木野会長、高崎副会長、二宮副会長とともに、厚生労働省を訪問しました。目的として、今年7月四日市市で開かれる研究大会での講演依頼、平成20年度からの病児・病後児保育再編の詳細について、各地方都市での格差是正のための指導・助言のお願い、等を持って母子保健課を訪ねました。母子保健課を訪問しましたが、平成20年度からの再編にも係わることから、保育課でお話をうかがうことになりました。

母子保健課から去年講演をして頂いた小林秀幸課長補佐他1名、保育課から陞本課長補佐、国松地域保育係ら計4名が対応してくださいました。

今回の一番大きな変更は、従来まで母子保健課と保育課に分かれて対応していた病児・病後児保育の主管が、すべて保育課に移ることです。二つの課に分かれ2本立てだった病児・病後児保育事業を1本化し、施設形態ではなく、子どもの状態に応じた対応の可・不可によって、類型化されます。つ

まり、これまでの医療機関併設型、保育園併設型、単独型、乳児院併設型、保育園自園型等の区分けが無くなり、「病児対応型」、「病後児対応型」、「体調不良児対応型」の3つに分けられます。従来の派遣型は廃止となります。定員4名以上の「病後児対応型」で、職員配置は看護師1名・保育士2名を基本とし、補助額が679万円、その上に「病児対応型」では医師との連携費等として約170万円が上乗せされます。また、必要な経費の一部は、保護者負担とすることができるようになります。6名定員でもこの人数配置で展開し、それ以上の定員施設は想定しないということなので、1000人を超える利用は見込まず1000人以上の利用加算はなくなるそうです。経過措置として1年間は従前の対応をするということですが、これまで定員4名・職員2名配置の施設も1年以内に新しい職員配置に移行する必要があります。また、「病児対応型」、「病後児対応型」では、対象を小学校3年生まで定員は4名～6名程度、

従来の自園型からの移行となるであろう「体調不良児対応型」では保育園児のみを対象とし定員は定めないとしています。「交付金」から「補助金」にシステムが変わるので、今後報告の義務も発生し、それとともに指導・助言の機会も増えてくる見通しです。また、消費税の減免については、協議会又は各医師会から要望して欲しいと言われました。

母子保健課から保育課に移管することで、厚生労働省のこの事業に対する方針が「保健」から「保育」へ変更になりました。病児・病後児保育が、「本来ならば健康な子どもを預かる保育の特別な場合」、という位置づけになり、根本からの見直しとなっています。

研究大会での講演はご快諾を頂きました。懇親会にもご出席をお願いしています。

研究大会の行政説明では、より詳しいお話をお聞きできると思いますので、是非多くの会員にご参加いただき、担当者からの直接の話を聞き、質問をして頂きたいと思います。

TOPICS 病児保育研究誌(仮称) 機関誌発行のお知らせ

各地で毎年開催されます研究大会では、会員の皆様より多くの優秀なご発表をいただいております。

協議会では保育看護の質の向上と更なる研鑽のために是非冊子として残していくことを考えてまいりました。

第18回三重大会において記念すべき創刊を予定しております。研究・実践・ポスター発表等幅広く

皆さんの推薦を受け、素晴らしい研究誌として作り上げてまいります。

「過去の大会にて発表されたものは？」などご質問もあるかと思いますが詳細は次号等でご紹介してまいります。

三重大会の成功とともに機関誌の創刊に向けて、会員の皆様の熱い思いを是非ご発表に込めていただけますようご協力ください。

編集委員会一同

「事例で学ぶ基礎研修」問題集をお届け

今回の病児保育ニュース第47号に同封して研修委員会編纂の「事例で学ぶ基礎研修」の問題集を会員施設に各3部お届けします。

研修委員会は、この冊子の発行目的を「2008年、全国病児保育研究大会の『基礎研修プログラム』を魅力あるものにするため、事前に問題を配布し、皆さんからいただいた解答を集計し、研修大会当日

『事例で学ぶ基礎研修』の講演時に発表します。皆さんとともに双方向性に問題を考え、研修を深めていきたいと考えます。多数のご参加をお待ちしています。決して正解はひとつではありません。お気軽にご解答ください。」としています。

会員施設にあたっては、研修委員会の取り組みに積極的に参加していただき、来る三重大会を実りあるものにしていただくようお願いします。

広報委員会事務局

平成20年度からの病児・病後児保育再編のポイント

< 19年度まで >

(ソフト交付金)

● 病院・保育所等に付設された専用スペースで看護師等が病児・病後児を預かる事業。

- 19年度予算額 36,500,000千円の内数
- 18年度実施 682カ所(交付決定ベース)

(特別会計)

● 保育中に体調不良となった児童を保護者が迎えに来るまでの間、保育所の医務室等で看護師等が預かる事業。

- 19年度予算額 1,041,680千円

[現状]

- ・ 子ども・子育て支援プランに基づき、計的な事業の取組を目標とする。
- ・ 平成19年度より、保育所における体調不良児への対応を行う自園型を創設。

[課題]

- ・ 少子化対策の課題として、病児・病後児保育の対応が求められている。(「子どもと家族を応援する日本」重点戦略)
- ・ 補助額が少なく、ほとんどの病児・病後児保育室で赤字経営となっている。(規制改革会議指摘内容)

再編・強化

< 20年度から >

・ 子どもの状態に応じて、

- | | | | |
|------------|-----------------|-----------------|--------|
| ① 病児対応型 | @ 848万円(定員4人以上) | @ 603万円(定員2人以上) | } (予定) |
| ② 病後児対応型 | @ 679万円(定員4人以上) | @ 463万円(定員2人以上) | |
| ③ 体調不良児対応型 | @ 441万円 | | |

* 事業を実施するために必要な経費の一部を保護者負担とすることができる。

の3つに類型化し、役割の明確化を図る。

* 従前の病児・病後児保育事業の職員配置に基づき実施する事業についても、当分の間、経過措置として実施可。(施設型(A・B・C)、派遣型)

- ・ 安心かつ安全な体制により子どもを預かれるよう職員体制の充実と補助単価の見直しを行う。
- ・ 補助体系を一本化し、地域における一体的な整備、効率的な運用を促す。
- ・ 20年度予算額(案) 2702百万円
- ・ 負担割合 1/3(国 1/3、都道府県 1/3、市町村 1/3)

(国 1/3、政令市・中核市 2/3)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 新年度において施設紹介ポスターを活用下さい ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



< 申込方法 >

全国病児保育協議会のホームページにアクセス、加盟施設向けポスターの中にある申込用紙をダウンロードして申し込んで下さい。

手順① 申込用紙をダウンロードし、必要事項を全て記入して申込先にFAXで申し込んで下さい。

手順② 申込後5日位後に施設名等が入った点検用ポ

スターが、FAXで送信されますので内容を点検して、訂正が無ければ電話で、訂正があればFAXで申込先にご連絡下さい。

手順③ 手順②が終了後1週間位後にポスターが届きますので、同封の振替用紙にて郵便局から送金して下さい。

< 頒布価格 >

A4サイズ=1枚105円

A3サイズ=1枚210円

送料=650円

10枚以上申し込んでいただくと送料が、無料になります。

好評販売中です

「必携 新病児保育マニュアル」

- B5版 378頁
- 価格 1冊 会員3000円
(送料・税込み)
- 非会員4000円
(送料・税込み)

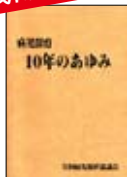


病児保育に関する事がすべて網羅されたバイブル的マニュアル本です。一人に1冊持っていたきたい必読書です。

「病児保育10年のあゆみ」

- B5版 104頁
- 価格は 1冊1600円
(送料・税込み)

残部少数



全国病児保育協議会設立10周年を記念して発行され、設立当初からの歴史を網羅しました。

※ご購入は、全国病児保育協議会のホームページより申込書をダウンロードしてFAXにて全国病児保育協議会事務局までお申し込み下さい。

「施設紹介コーナー」「東西南北支部便り」を連載中！加盟施設のみなさん原稿をどしどし送ってください。また、各施設で特に取り組んでいることや楽しい出来事などがあれば、紹介させてください。原稿をお待ちしています。

＜協議会ニュース 編集事務局＞

〒531-0076 大阪市北区大淀中3丁目15-5
(株)関西共同印刷所内 藤本 文孝 宛
TEL.06-6453-3675 FAX.06-6442-5788
E-mail fumifumi1@cronos.ocn.ne.jp

会員専用掲示板利用について

協議会ホームページで会員専用掲示板を公開しています。これまで多数の方が意見交換等で活用して頂きました。今回さらに多くの会員の皆様に会員専用掲示板を活用して頂くために、ID・パスワードをオープンパスワードとして公開します。多くの会員の皆様のアクセスをお待ちしています。なお、協議会の主旨以外の利用を防ぐためにも会員外の方にID・パスワードを公表しないようお願いします。ID・パスワードは、定期的に変更しますのでご注意ください。

ID:「by0uj1」ピーワイゼロユーージェイチ
パスワード:「byj642hik531」

通信欄

会員の皆さまからのお便り・質問等をFAXやメールでお送りください。直接回答させていただいたり、ニュース等に掲載させていただきます。

送付先:FAX 06-6442-5788

E-mail fumifumi1@cronos.ocn.ne.jp 広報の藤本まで。

全国病児保育協議会新規加入の施設

427 ◆おひさまキッズハウス

院長 倉光 誠
〒751-0872
山口県下関市秋根南町2-2-22
TEL:0832-56-2865 FAX:0832-56-2865

428 ◆深江保育園

園長 三隅 龍雄
〒859-1503
長崎県南島原市深江町丙1060-3
TEL:0957-72-3323 FAX:0957-72-3871

429 ◆笠岡第一病院

病児保育室すこやかキッズルーム
副理事長 宮島 裕子
〒714-0043
岡山県笠岡市横島1945
TEL:0865-67-0290 FAX:0865-67-5280

430 ◆医療法人 和心会クリニック

院長 長島 学
〒350-1101
埼玉県川越市市場826-1
TEL:049-231-2005 FAX:049-231-2632

431 ◆港区病後児保育施設「まちかど保健室みなと」

代表理事 駒崎 弘樹
〒107-0062
東京都港区南青山1-3-15
TEL:03-3408-0466 FAX:03-3408-0466

426 ◆医療法人活人会水野クリニック

おひさま病児保育室
理事長 水野 恭一
〒224-0026
神奈川県横浜市都筑区南山田町4257-1
TEL:045-595-1233 FAX:045-595-1139

全国病児保育協議会事務局

〒535-0022 住所:大阪市旭区新森4-13-17 中野こども病院気付

担当: 藪田・堀込 電話: 06-6952-4778 FAX: 06-6954-8621